

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第38回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2016年7月12日 (火) 10:00～11:45

2. 場所 原子力安全推進協会 第3・第4会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 柳原主査, 武部副主査, 小畑, 柏木, 佐々木, 田中, 大浦, 横田, 脇, 新津, 都筑 (11名)

(欠席委員) 坂下, 野口 (2名)

(代理委員) 山本 (伊藤代理), 田中 (熊谷代理) (2名)

(常時参加者) 松本, 井上, 木原, 浦上, 手塚, 満田, 北島 (7名)

(欠席常時参加者) 中山, 小野, 宝珍 (3名)

(オブザーバー) 森山 (1名)

4. 配付資料

F9Ph2SC38-1 第37回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案

F9Ph2SC38-2 人事について

F9Ph2SC38-3-1 第67回原子燃料サイクル専門部会議事録案 抜粋

F9Ph2SC38-3-2 「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査方法:2010」標準 改定要否検討結果

F9Ph2SC38-3-3 添付資料-1 現行標準記載内容等の修正可否検討結果(特に法令等を基にした)

F9Ph2SC38-3-4 添付資料-2 各国における廃棄物分類と処分先

F9Ph2SC38-4-1 誤記等内容検討結果について

F9Ph2SC38-4-2 トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査方法:2010 誤記チェック結果

F9Ph2SC38-4-3 余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:2015 誤記チェック結果

F9Ph2SC38-5 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:2015」標準の講習会案内

F9Ph2SC38-6 「LLW廃棄体等製作・管理分科会」の予定案

5. 議事

(1) 出席委員の確認

都筑委員から, 開始時に田中委員(熊谷委員代理), 山本委員(伊藤委員代理)の出席を含め13名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数(10名以上)を満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録(案)の確認(F9Ph2SC38-1)

都筑幹事から、第37回LLW廃棄体等製作・管理分科会の議事録(案)が紹介され、承認された。

(3) 人事について(F9Ph2SC37-2)

都筑委員から原子力規制庁・大塚常時参加者の登録解除が報告された。また、原子力規制庁・井上氏が新常時参加者登録として承認された。

(4) 「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査方法:2010」標準の5年毎の改定要否(F9Ph2SC38-3-1, 3-2, 3-3, 3-4)

都筑委員より資料F9Ph2SC38-3-1, 3-2, 3-3, 3-4を用いて5月26日に行われた原子燃料サイクル専門部会への「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査方法:2010」標準の改定要否検討結果の報告状況について説明があった。

専門部会でのコメントは資料F9Ph2SC38-3-1の専門部会議事録(抜粋)に示す通りである。コメント対応に関し、柳原主査等と相談し、資料を修正し、現在、専門部会の書面投票中である。まだ、書面投票は終了していないが、今の所、特に意見はないようである。今後、コメント等があった場合、その対応は主査、副主査、幹事等で対応することが了解された。

(5) 発行済標準の誤記チェックに関して(F9Ph2SC37-4-1~4-3)

都筑委員より資料F9Ph2SC37-4-1~4-3を用い、本分科会が発行している下記2標準について各委員の誤記チェック検討結果、及びその対応案の説明があり、今後、この結果を基に正誤表を作成する予定との説明があった。

- ・トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査方法:2010
- ・余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:2015

この誤記チェック検討結果に関し、各委員から次のコメントがあり、正誤表等はコメントを反映することとなった。

- ・現在、武部副主査が2標準をチェック中であり、結果を後日都筑幹事に送付する。誤記チェック結果に対する判断等は、武部副主査のチェック結果も取り入れることとした。
- ・誤記チェック結果に対する判断で「このまま」としている部分は、誤記ではないと判断されている。従って、その部分の重要度分類記載は必要ないと思われる。
→各チェック項目を一律に重要度分類し、各委員のチェックに対する対応方針(コメント反映、反映せずこのままなど)を示す必要があったため、このような標記となった。しかし、誤記チェック結果を報告する時は、「このまま」の項目は、誤記の対象外であるため削除する。
- ・この結果を基に正誤表を作成するとのことだが、次回改定までの修正個所の周知はどうか、また、法律が変わった時は、標準を改定するのか、あるいは正誤表で対応するのか?さらに、正誤表はどの様に周知するのか。
→法律が変わった時などは標準の改定になると思う。また、学会事務局に確認していないが、正誤表の周知は、学会ホームページ及び会員への一斉メールが可能と思われる。

(6) 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:2015」標準の講習会開催の件

都筑幹事より資料 F9Ph2SC38-5 を用い、昨年6月に制定、9月に発行した「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法:2015」標準の講習会に関して説明があった。

講習会は7月20日午後、現在までの受講者は少なく4名である。締切は本日であるが、分科会委員の帰社後、各社での講習会参加呼びかけを依頼した。

(7) 分科会等の今後の予定について

都筑委員より F9Ph2SC38-6 を用い、今後の分科会予定案が説明された。

標準委員会の L3 標準改定不要の決議状況、誤記チェックの対応状況を考慮し、次回分科会は10月頃を予定とする。開催日は10月に近くなった時にアンケートを出すこととした。場所は JANSI 会議室を予定とする。

以 上